



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第3号 NO. 003

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2015年10月17日

平成27年度「DIGフォローアップ研修会」報告

今回の研修会は、講師のパワーポイントによるDIGについての説明を受けて、参加者を4グループ6名に分け、保土ヶ谷区の4×3印刷地図を貼り合わせた地図を使用し、講師からの指示に従い地図上に「まちの現状」と「災害発生時の状況」を落とし込み、要支援者7名(A～G)の支援優先順位を各自考えてもらい、グループで話し合いそれをグループの意見としてまとめ、その結果をグループの代表者に発表してもらいました。また今後の研修会の参考にするためアンケートも実施し参加者に満足してもらえる研修会になりました。

日 時 2015年(平成27年)10月17日(土) 9:45～11:45

会 場 横浜市星川地域プラザ 2階多目的ホール 保土ヶ谷区川辺町5-11

参加者 28名(日本防災士会横浜支部:25名、一般:3名)

講 師 日本防災士会横浜支部役員

9:45 今井支部長あいさつ・講師紹介



今井支部長あいさつ



長沼・玉江両講師によるDIG説明

講義(長沼幹事)内容

1) DIGの目的:被害想定、ハザードマップ、地形図、防災拠点の位置、災害対応をイメージする

2) 地域防災の出発点は「まちを良くすること」

(1) まちの特性をしる (2) 被害想定を知る (3) 災害時の対応を考える

3) まちの特性を知る

(1) 地形(海、川、湖、丘、山、崖、埋立地)・道路、鉄道、橋、港・公共施設、防災拠点

(2) 木造住宅密集地域、ゼロメートル地帯・避難場所、避難所、広域避難場所

(3) 古くからの地名でチェック

・さんずいの入った地名(池、沼、湖、浜、沢、江、淵、潟、溪)

・水辺の動物や植物(魚、貝、亀、鶴、鴨、芦、蓮)

・水辺を示す文字(浜、浦、崎、岬、島など)・水辺で使われるもの(舟、船、橋、堤など)

4) 災害時の対応を考える

◎安全な場所へ避難・余震・津波・延焼火災から避難

◎要支援者の避難誘導

5) DIGで使用する地図の作り方



図上訓練作業手順: 指導: 長沼幹事、玉江幹事、越智幹事

- 1) 4×3印刷地図を貼り合わせ一枚の地図にする。→新聞紙の上に地図を置きテープで固定する。
- 2) 地図の上に「まちの現状」を落とし込む(写す)。→終了したらビニールシートをかかぶせ、まず4隅を固定する。
- 3) 「災害発生時の状況」をビニールシートの上に落とし込む(写す)



4×3印刷地図の張り合わせ



災害発生時の状況



4) 「まちの現状」「災害発生時の状況」をよく見て、要支援者(Aさん～Gさん)の「危険度」を「大・中・小」で判断し、要支援者の支援する優先順位(1～7)を決める

・まず個々に要支援者の優先順位を決める→出そろったらグループで話し合いグループとしての優先順位を決める

5) グループ発表(支援する優先順位)

6) DIG研修会アンケート

7) まとめ・講評



グループ優先順位結果まとめ



グループ優先順位発表結果



今井支部長の講評

11:45 研修会終了解散

評価・感想

今回の研修会は、9月に本部で開催されたDIG・避難所開設運営指導者研修会に参加した長沼・玉江・越智の3名が担当しました。今回の研修会は自治会・町内会の役員がDIGを行う時にお手伝いできるようになるためにDIGで使用する地図の作り方、「まちの現状」「災害発生時の状況」をよく見て、要支援者（Aさん～Gさん）の「危険度」を「大・中・小」で判断し、要支援者を支援する優先順位（1～7）を決めることに重点を置いて実施したことです。グループ発表のあとにアンケートを行ない研修会の効果を確認いたしました。

報告者 玉江牧雄